



新型コロナワクチン接種の状況について

鈴木 健夫

問 新型コロナワクチン接種の1回目、2回目の12歳以上の人口に対する接種率は。

答 12歳以上の接種対象者は、5万622人で、接種率は、1回目が86.7%、2回目が85.7%である。

問 2回の既接種者のブレイクスルー感染はみられるか。

答 接種状況については、県からの情報に含まれていないので、把握することはできない。

問 健康被害救済制度による給付の申請件数、申請から給付までの日数、診療費や診断書取得費などの実費負担はどうか。

答 これまで2件の申請があり、認否までに数か月が見込まれる。診断書などの取得に要した費用は自己負担である。

3回目の追加接種について

問 これまで、ファイ

ザー社のワクチンで、アファイラキシー等の副反応があった場合には、3回目の接種では、別のワクチンとなるか。

答 現在、薬事承認を受けているファイザー社のものを使用するが、他社のもので承認を受けた場合は、国から通知がある。

問 接種券発送に向けたデータ整理の状況は。

答 2回の接種記録に必要な整理を加え、現在は、おおむね終了している。

問 接種の予約受付は、予想される混雑やトラブルに対応できるのか。

答 接種券の発送をコントロールするとともに、コールセンターの人員を増員して対応する。また、各公民館にて職員がタブレットを用いて、予約の支援を行う。

問 予防接種実施計画の更新の状況は。

答 各医療機関と接種体

制の詳細について調整を進めており、調整後は、速やかに接種計画を更新していく。



新型コロナワクチン追加接種に向けて

子どもへのワクチン接種について

問 5歳から11歳までの子どもへのワクチン接種の準備はどうか。

答 副反応が生じた際に適切な初期対応ができる医療機関で準備を進めていく。小児科診療を行う医療機関での個別接種も検討している。

問 総合福祉センター「高麗の郷」の用途は。

答 市民の相互交流や地域福祉活動に利用できる。

問 総合福祉センター「高麗の郷」のエントランスを自由に交流できるスペースとする考えは。

答 非常時の避難経路等



ボランティア・市民活動の促進・支援について

松尾 万葉香

問 近年、財政がひっ迫する中、福祉、子育て、文化、教育、保健、環境、防災といったさまざまな分野において、ボランティアの方々に行行政サービスが行き届かない部分を支えていただいている。今後、ボランティアの活動環境を整え支援していく必要があるという観点から、これからの公民館の役割を確認する。

答 学校区ごとに公民館を置いていくという特色を生かし、社会教育を通じて「総合的な地域づくりの拠点」としての役割を担っていく。

問 総合福祉センター「高麗の郷」の用途は。

答 市民の相互交流や地域福祉活動に利用できる。

問 総合福祉センター「高麗の郷」のエントランスを自由に交流できるスペースとする考えは。

答 非常時の避難経路等

を考慮しつつ検討する。
問 小・中学校統合後の空き校舎の活用は。

答 小・中学校の統合決定後に検討を開始する。

問 公民館などの公の施設の使用料の減免基準見直しに関して、市民コメントの結果をどのように受け止めているか。

答 95人の方から意見があり、多かつた意見は、公益性のあるボランティア団体に対する免除、公民館登録サークルの負担軽減、経過措置等を求めるもので、これらの意見を踏まえ検討していく。

問 市とボランティアセンターとの連携は。

答 市は、情報集約サイト・ボランティアネットワークの充実やコーディネート等の育成等を支援する。

里親制度の普及啓発について

問 里親登録数が少なく、児童養護施設等で育つ子

どもが多い。また、虐待の予防的措置が行えていない現状もある中で、市の課題認識と対応は。

答 里親制度が知られていないことが課題である。養子縁組だけでなく、親の入院時や週末のみなどの短期で受け入れる里親もあること、子どもの養育費が支払われることなど、制度の理解を広げる必要がある。多くの方に登録いただけるよう周知に努める。

里親制度について

預かりは、短期間でも可能です

